

夢

追

い

人

ツキ板をもっときれいに見せたい…

そんな夢から取り組んだピアラシオ



(有)アサヒ突板工業  
専務 箴島哲也さん

今回紹介するのは、ピアラシオを開発した(有)アサヒ突板工業の専務 箴島哲也さん。ピアラシオを使ったテーブルは、福岡県産業デザイン賞を受賞している。これは室内装飾を優雅にする、新感覚のすてきな素材だ。ピアラシオは、平たくいえば、装飾ツキ板合わせガラスとでも表現できるだろう。ガラスとツキ板の組み合わせで作られている。

ところで、読者の中には「ツキ板とはいったいなんだろう?」と思われる方もいらっしゃるかもしれない。そこで、箴島さんに説明してもらおう。

「ツキ板とは、木材を飽で〇・六ミリから〇・三ミリにスライしたもので、家具の表面や建築用内装材として用いられています。材種としては、ケヤキ、桜、樺、ニレ、メープル、チーク、ローズ、ウォールナットなどが用いられます。それに杢目には、板目、柾目、杢目、コブ目、年輪などの模様があります。」

バックライトの効いた、ピアラシオの見本を数種類見せてもらった。確かに今まで、地元大川でも見たことがない、洗練

された美しく、シャープな感覚を醸し出している。

箴島さんはこう説明する。「反対面からの光によって、ツキ板の導管から、光が漏れ、これまでになかった造形が浮かび上がるのが特色です。確かに従来の木材やツキ板合板塗装に比べ、艶やぬれ色感ある杢目が鮮やかです。その点で洗練された空間作りに、自在に使える新感覚の素材だと思っています。」

しかも多様性がある。だから全く自分だけのオリジナルを作ることできる。「ガラスの種類、ツキ板の種類、染色の種類、幾通りもの組み合わせには

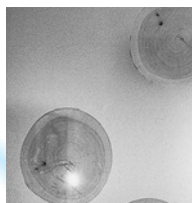
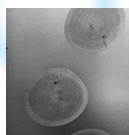


福岡県産業デザイン賞を受賞したピアラシオのテーブル

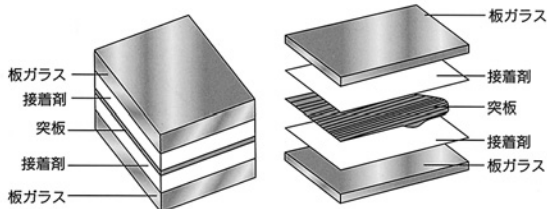


ピアラシオのディスプレイ

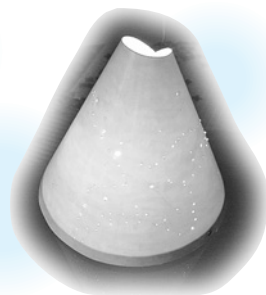
木の模様が光をあたたく包んでいるようだ



ピアラシオのつくり



ランプキットは自分で作る事ができる



木の模様からこぼれでる淡い光がなんともいえない

限りがありません。顧客の好みや用途に応じて、自由に作り上げることが出来ます。」  
安全も考慮されている。割れても破片が飛び散らないように、プレス接着による製法処理を施されているからだ。ツキ板の色落ちも心配ない。九九%紫外線をカットするので、十年経っても色落ちすることはないぞうだ。

ところで、箄島さんは、なぜピアラシオを開発しようと思いついたのだろうか。「以前から、『ツキ板のもっときれいな見せ方はないものだろうか?』と考え続けていました。それに、過去の開発経験があったので、ピアラシオでも積極的に取り組めました。」

その経験とはなんだろうか? 「抗菌化粧合板の開発です。全く新しい試みで、たびたび壁にぶつかりましたが、第三セクターの久留米リサーチパークの専門家、大学教授たちにアドバイスを求めることができました。そして、今回の開発についてはそのような過去の経験とノウハウ、それに、同じように久留米リサーチパークの援助

が助けになりました。」  
今ピアラシオは徐々に浸透を見せている。たとえば、ピアラシオを使った建具(有竹下建具工芸)が、全国建具展で入賞している、実績からもわかる。評価も高まりつつある。

主な取引先はハウスメーカーであるが、今後は「公共商業施設や家具用の新素材」として提案していきたい」との考えがある。

さて、もう一つお勧めがある。それは、昨年開発されたランプシェード。プラスチックフィルムにツキ板を貼り合わせて作られている。ツキ板シェードに包まれたランプの光は、雰囲気がとてもよい。和室にも、洋室にもしっくりいきそうだ。今これらの部材は、東急ハンズに卸している。そしてアサヒ突板工業では、プラモデルのように顧客が組み立てられるような、ランプキットも販売している。作り上げる楽しみがある。興味のある方はアサヒ突板工業で購入できる。

前向きに新製品開発に取り組む、箄島さんはまさに「夢追い人」だといえる。